

2020 年度
事業計画書

公益社団法人日本コントラクトブリッジ連盟

目 次

はじめに.....	1
1. 環境認識.....	1
2. 基本方針.....	1
事業別基本方針.....	3
I. 競技会事業（公益目的事業 1）.....	6
【2020 年度の計画概要】.....	6
1. 競技会の主催（公益目的事業 1.1）.....	7
2. 運営環境の整備（公益目的事業 1.2）.....	9
3. ディレクターの養成（公益目的事業 1.3）.....	9
4. 競技会事業管理（公益目的事業 1.9）.....	10
II. 普及事業（公益目的事業 2）.....	11
【2020 年度の計画概要】.....	11
1. 体験イベントの開催（公益目的事業 2.1）.....	12
2. 講習会の開催（公益目的事業 2.2）.....	13
3. 体験教室・講習会等の実施支援（公益目的事業 2.3）.....	14
4. 広報（公益目的事業 2.4）.....	15
5. 普及事業管理（公益目的事業 2.9）.....	16
III. 国際交流事業（公益目的事業 3）.....	17
【2020 年度の計画概要】.....	17
1. 国際競技会の主催（公益目的事業 3.1）.....	18
2. 国際競技会への代表派遣（公益目的事業 3.2）.....	18
3. 国際的競技団体との交流（公益目的事業 3.3）.....	20
4. 国際交流事業管理（公益目的事業 3.9）.....	20
IV. 公益事業共通.....	21
【2020 年度の計画概要】.....	21
V. 収益事業等.....	22
【2020 年度の計画概要】.....	22
1. 公認（収益事業等 1）.....	22
2. 商品販売（収益事業等 2）.....	23
VI. 法人・管理部門.....	24
【2020 年度の計画概要】.....	24
1. 会員・会友.....	24
2. 組織運営.....	24
3. 常設委員会.....	24
① 企画委員会.....	24
② センター協議委員会.....	24

はじめに

1. 環境認識

近年の傾向としてはプレイヤーの高齢化が挙げられる。昨年度には70歳以上のB会友の人数がA会友のその1.5倍に達した。競技参加者数では70歳代の参加者が各年代の中で1番多く、新入会員、会友の年齢分布においては60代が1番、その次に70代が多い状況となっている。こういった高齢化の流れは今後も続くものと思われ、海外ではACBL¹で特に顕著な傾向として表れている。日本の高齢化の背景としては、海外駐在期間中にブリッジを覚える女性が減ったこと、働く女性が増え男性の就労年数が長くなったことにより入門講習会でブリッジを学び始める年代が上がってきていることなどが考えられる。

その一方で約7,500人いる会員、会友のうちの約9割は2018年1月～12月の期間中に1回以上は競技会に参加し、その方々の同期間の月平均の競技参加回数はWEEKLYに3.5回、SECTIONALに2.4回、それ以外のCCG、LOCAL、REGIONAL、NATIONALに合わせて1.7回であった。それらを合計すると会員、会友の約9割は月に平均7.6回の競技参加を行っていることになる。従って会員、会友の競技会に参加する機会は非常に多く、逆に言えば競技会に熱心な方が会員、会友を続けていることを示している。

比較的若いプレイヤーを増やす取り組みのほうは、数としてはまだ不十分であるが成果は見られている。2018年度の新入会員、会友の合計357人のうち40歳以下は47人であった。これは比較を行った最近7年間の40歳以下の人数では1番多く、例えば2012年度の21人、2013年度の6人、2014年度の19人と比べて増えている。また、各競技会において20代の若いプレイヤーの活躍が目立った。2020ワールドブリッジゲームズのウィメン代表選抜試合では20代の選手1名を含むチームが勝利した。2019年度冬季日本リーグの2部では6人全員が20代の2チームが1位と3位を占めた。

それ以外の明るい話題としては、国際大会での日本ウィメンチームの活躍が特筆される。同チームは第52回APBF選手権シンガポール大会で3位入賞し世界選手権の切符を獲得したのに続き第44回世界ブリッジチーム選手権で24年ぶりのベスト8進出を果たした。

2019年度の会員、会友数は前年度と比較してほぼ横ばいとなる見込みである。高齢化を抑制するために新規プレイヤー、比較的若いプレイヤーの獲得に一層注力する必要がある。競技会に移行しきれていないプレイヤーの競技会への誘導も大事になっている。それに加えて、競技会に熱心に参加している層により良い競技会環境を提供できるよう努めていきたいところである。

2020年2月頃から、新型コロナウイルスによる影響が各ブリッジセンター・クラブにおいて深刻になってきている。状況を注意深く見ていく。

2. 基本方針

昨年度の事業計画では、中長期的な課題を①事業基盤：積極的な収益増加策を試行していく、②普及活動：体験教室に参加する人数を増加させ、それにつれて入門講習会に進む割合も向上させていく、③高齢化対応：学生リーグの活性化策など成果が目に見え

¹ American Contract Bridge League

る具体的な施策で対応していく、とした。いずれの課題も長期継続的に取り組む必要があり、達成度合いも限定的であることから、本年度も引き続き強化策に取り組んでいく。

①事業基盤：本年度はブリッジフェスティバル開催のため赤字となり、2019年度との2年間での収支均衡を目指す。直接の収益が公認料に依存する体質に変わりはないが、公認料収入は概ね前年並みを見込み安定している。本年度は国際交流事業でヨーロッパ（イタリア）開催による費用の増加があるが、人件費などの管理費の削減で補える算段である。財政状況は当面は順調に推移するものと思われる。

②普及活動：本年度も幅広い世代を対象とした新しいプレイヤーを増やす活動に注力していく。2017年度から開始した優待券進呈キャンペーンは、昨年度の申請件数が約50件であった。本年度も人のつながりを活用した普及に努めていく。体験教室、入門講習会の活性化については、首都圏はもちろん地方のセンター・クラブも含めて新聞などのメディアを活用した参加者の確保を行う。地方活性化を目的とした地方の入門者の首都圏初心者大会への招待、および競技会への誘導を目的としたサロン対抗戦の開催を継続する。

③高齢化対応：若い世代のプレイヤー獲得に向けて、幅広く活動を行っていく。大学授業や大学ブリッジクラブでブリッジに親しんだあと、長い社会人生活の中で少し落ちついたところでブリッジを再開するような流れを大事にしたい。競技会参加につながりやすいゲーマー向けの普及活動、ライトな愛好者の拡大を図る社交型ブリッジの活動を支援する。

以上を踏まえて、本年度も引き続き業務執行体制の強化、事業の効率化とともに公益に資する事業運営に努め、各事業部の事業計画に沿って計画的に事業を実施する。具体的には次の3点を基本とした活動を行う。

(1) 収益増加

本年度の予算編成に関しては、ブリッジフェスティバルの非開催年度である昨年度と2年度通算での収支均衡予算を目指す。具体的には、ブリッジフェスティバル開催のための1,200万円の収支悪化分を含めて416万円の赤字を見込む。

- 競技会事業においては、会員・会友の高齢化に伴う参加者数の減少を防ぐ競技会運営を検討し、新規プレイヤーの競技会参加定着を図る。初心者の競技会参加頻度が上がるような競技会運営を目指す。

(2) 経費効率化

- 本年度も事務局職員の世代交代を継続し、人件費が減少する。昨年5月に新規採用した若手職員、及び中堅職員の育成を行い、事務局の新しい体制の構築を進めていく。マニュアル化や作業効率化を図り、作業の確実性を高めていく。
- 普及事業については、広報活動において、ブリッジの一般的な知名度の向上を目指す広告掲載から、具体的な体験教室、入門講習会の告知広告を重視する方向への移行を強め、効率的な宣伝活動を行っていく。

(3) 将来への投資

- 若い世代のプレイヤーの獲得のため、橋之介くらぶ、ユースプレイヤーの育成、学生リーグ運営、大学授業の実施、社交型イベント、ゲーム愛好家の活動の支援を行う。

事業別基本方針

I. 競技会事業（公益目的事業 1）

【競技運営】

主催競技会の運営においては、世界各国からも高い評価を受けている大会運営ノウハウを生かして質の高い競技会の提供に努めるとともに、担当ディレクターや参加者からの意見やニーズを収集して問題点や課題の把握に努め、迅速に対応していく。

【ブリッジフェスティバル】

2015年以降ブリッジフェスティバルを隔年開催とした。本年度は開催年にあたり、日程を1日短縮して、横浜カップ、横浜スイスチーム、横浜オープンペアを2021年2月に開催する。

【競技会の向上】

中長期的な課題として、よりよい競技機会を広く提供するために競技会の内容の見直しと競技会参加者に対するサービス向上を図る。

【JTOS】

競技会運営管理システムの整備・改善に努める。競技会運営ソフト（JTOS）については競技会事業部が継続して保守にあたることとし、使用者のニーズに合わせた新バージョンを随時リリースする。スコア入力システム（ブリッジメイト）の貸与及び導入支援を継続する。

【ディレクター育成】

ディレクター講習会を継続し、競技会運営のレベルアップを図る。3年ごとに行っているナショナルディレクター養成プログラムは、本年度に実施する。また12月にWBFのディレクター講習会を予定する。

【ブリッジの規則改正】

デュプリケートブリッジの規則の改正が日本では2018年3月31日から施行され、昨年度はWBFから発行された規則の解説の日本語化とその周知に努めた。本年度はさらなる周知を行う。

II. 普及事業（公益目的事業 2）

【広報活動】

体験教室、入門講習会の告知活動、ブリッジを紹介する動画およびその続編の制作とYouTubeへの公開を行う。

【入門講習会支援】

新聞に開催告知広告を掲載し、各センター・クラブ主催の体験教室、入門講習会の参加者の増加を図る。口コミを活用した入門者獲得を推進する「優待券進呈キャンペーン」の継続と、センター・クラブの周辺地域での体験イベントの開催を行っていく。

【初心者競技会参加の支援】

初心者大会の賞品を充実させ活性化を図るとともに、地方参加者を首都圏の初心者大会に無償招待をすることで地方の競技参加層を拡大させる。講習会の先生と MP5 未満のプレイヤーが一緒のチームで参加する初心者大会を開催する。

【体験イベント】

ブリッジを知らない人に体験してもらう場を開催し、ブリッジの宣伝と新規プレイヤーの獲得を行う。ねんりんピック 2020 岐阜、ゲームマーケット 2020 春、秋、大阪、霞が関子ども見学デー、関西ジュニアペア碁大会に出展する。

【子どもおよびユース】

橋之介くらぶでは、四谷・横浜・大船の 3 会場でブリッジの基礎を学ぶ機会を提供する。大学生を中心としたユースプレイヤーの育成を図るため、講習会や合宿の開催と補助、競技会への誘導、クラブ活動の支援を行っていく。

【大学でのブリッジ授業の開講】

大学でブリッジ授業を開講し、ブリッジに理解のある若い世代の確保とブリッジの知名度の向上を図る。東京大学・早稲田大学・青山学院大学・明治大学・大阪大学・愛媛大学でそれぞれ実施する。

【若い成人向けの普及活動】

20～40 代が中心の普及活動「社交型ブリッジ」及び「ゲーム愛好家向けブリッジ」はそれぞれほぼ毎月開催され、新しい層へのブリッジの訴求に着実な成果をあげてきた。今年度もそれらの活動を支援し、若い世代のブリッジの楽しみかたの選択肢を広げる。

【京阪神の普及活動】

カルチャースクールと連携して一般層の取り込みに力を入れる。大学生を中心とした若い世代に対しては競技会へ積極的に誘致してレベルアップを図る。

【その他各地域の普及活動】

福岡、札幌、仙台及びその他の全国各地域の普及活動に対して、広告宣伝への協力、指導ノウハウの共有を行い、体験教室の開催を支援していく。

III. 国際交流事業（公益目的事業 3）

【2020 ワールドブリッジゲームズ】

2020 年 8 月にサルソマッジョーレ・テルメ（イタリア）で開催される 2020 ワールドブリッジゲームズに、オープン、ウィメン、ミックス、シニアの 4 つの代表チームを派遣する。4 チーム中 2 チーム以上のノックアウトステージ進出を目指す。

【世界ユースチーム選手権】

2020 年 7 月にサルソマッジョーレ・テルメで開催される世界ユースチーム選手権にヤ

ングスターおよび U31 の代表チームを派遣する。

【2022 年アジア大会】

2022 年中国の杭州で開催される第 19 回アジア競技大会の参加に向けた準備を進めていく。日本オリンピック委員会、日本アンチ・ドーピング機構への加盟継続と派遣種目の選定を今年度実施する。

IV. 収益事業等

① 公認事業（収益事業 1）

- 公認事業関連業務は公認ブリッジクラブ及びブリッジセンターと連携し、より円滑かつ適正な事業運営となるようシステム化、効率化を進めていく。

② 商品販売事業（収益事業 2）

- 在庫管理や販売方法など関連業務の見直し及び効率化を図る。

V. 法人・管理部門

- 昨年度に引き続いて「新入会無料キャンペーン」を継続する。2014 年度から 2017 年度の無料キャンペーン利用者は無料期間終了後も高い継続率を維持しているため、新入会者の確保を最優先としそのための施策を実施する。
- 各センター・クラブとの連携の強化、プレイヤーにとってより魅力のある連盟を目指し、事務局員のブリッジ愛好者への対応の向上を図る。事務局業務の改善と職員の世代交代の促進に取り組み、マニュアル化を推進する。
- 内部統制力の向上のため、連盟内システムの改善に取り組む。
- 進展する高齢化社会に対応し、弾力性のある事業基盤の構築をめざす。

I. 競技会事業（公益目的事業 1）

【2020 年度の計画概要】

(1) 計画概要

本事業は、当連盟自らが質の高い各種ブリッジ競技会を開催することはもとより、ブリッジセンター／クラブまたは個人が開催するものも含め競技会全般の質を維持し、よりよい競技機会を広く提供することを目的とする。この目的に照らして、(1) 競技会の主催、(2) 競技会運営環境の整備、(3) ディレクターの養成の 3 事業を行う。

これまで 22 回にわたり毎年開催していたブリッジフェスティバルは、2015 年 2 月の開催以降隔年開催としている。今年度はブリッジフェスティバルの開催年度にあたり、日程を 1 日短縮して、2021 年 2 月に横浜カップ、横浜スイスチーム、および横浜オープンペアを開催する。

(2) 収支総括	2020 予算	2019 予算	前年差	備考
経常収益	46,840,000	38,800,000	8,040,000	
経常費用	82,410,000	62,450,000	19,960,000	
経常増減	-35,570,000	-23,650,000	-11,920,000	

(3) 事業別総括表

事業名	区分	2020 予算	2019 予算	前年差	備考
1.1 競技会の主催	経常収益	46,840,000	38,800,000	8,040,000	ブリッジフェスティバル 開催
	経常費用	61,560,000	42,570,000	18,990,000	
	経常増減	-14,720,000	-3,770,000	-10,950,000	
1.2 競技会運営環境の整備	経常収益	0	0	0	
	経常費用	1,720,000	1,700,000	0	
	経常増減	-1,720,000	-1,700,000	-20,000	
1.3 ディレクターの養成	経常収益	0	0	0	
	経常費用	1,190,000	290,000	900,000	
	経常増減	-1,190,000	-290,000	-900,000	
1.9 管理費	経常収益	0	0	0	
	経常費用	17,940,000	17,890,000	50,000	
	経常増減	-17,940,000	-17,890,000	-50,000	

【事業別計画】

1. 競技会の主催（公益目的事業 1.1）

(1) 計画概要

① 主催競技会（詳細は次ページ表を参照）

- ・ ナショナル及びリジョナル競技会、日本リーグ、社会人 IMP リーグを開催する。
- ・ リジョナル競技会については、センター移管した 5 競技会が高い運営レベルを維持されるよう支援・監督する。
- ・ 地方からの参加者に対する交通費・宿泊費助成、前年度優勝者参加料割引を継続する。

② ブリッジフェスティバル

- ・ 今年度は横浜ブリッジフェスティバルを開催する。開催日程は従来の大会より 1 日短縮し水曜日から日曜日の 5 日間とする。その関係で IMP ペアは開催せず、横浜カップ、横浜スイスチーム、および横浜オープンペアを開催する。
- ・ パシフィコシリーズ上位 12 名及び地方在住の上位 4 名までを横浜オープンペアに招待する。
- ・ 協賛企業の獲得を目指す。

(2) 収支総括	2020 予算	2019 予算	前年差	備考
経常収益	46,840,000	38,800,000	8,040,000	
経常費用	61,560,000	42,570,000	18,990,000	
経常増減	-14,720,000	-3,770,000	-10,950,000	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	2020 予算	2019 予算	前年差	備考
主催競技会	前年度並み	経常収益	34,700,000	36,540,000	-1,840,000	
		経常費用	38,630,000	40,380,000	-1,750,000	
		経常増減	-3,930,000	-3,840,000	-90,000	
ブリッジフェスティバル	拡大	経常収益	12,140,000	2,260,000	9,880,000	
		経常費用	22,930,000	2,190,000	20,740,000	
		経常増減	-10,790,000	70,000	-10,860,000	

JCBL 主催競技会開催予定表

競技会名	日 程	開催日数	場 所	予定卓数
1) ナショナル競技会(全国大会)				
全日本地域対抗戦選手権 (関東予選)	5月9、10、16、17日	4日	四谷 BC	40
藤山杯	7月11、12日	2日	四谷 BC	40
全日本ウィメンズチーム	7月18、19日	2日	四谷 BC	60
全日本地域対抗戦選手権 (決勝)	8月1、2日	2日	グランドホテル 浜松	32
外務大臣杯(予選・決勝)	8月29、30日	2日	四谷 BC	30
高松宮記念杯	9月12、13、19、 20日	4日	四谷 BC / 五反田 BS	96
全日本女子ペア選手権 (予選・決勝)	10月3、4日	2日	四谷 BC	48
高松宮妃記念杯(予選・決勝)	10月31日、11月1日	2日	四谷 BC	40
ブルーリボン杯	12月20日	1日	四谷 BC/名古屋 BC/大阪 BC	90
レッドリボン杯	12月20日	1日	高田馬場 BC/ 大阪 BC	40
朝日新聞社杯	1月9、10、11日	3日	四谷 BC/五反田 BS /高田馬場 BC/渋谷 BC	150
横浜カップ	2月10～13日			
横浜スイスチーム	2月13日	1日	パシフィコ横浜	20
横浜オープンペア	2月14日	1日	パシフィコ横浜	30
2) 日本リーグ				
1部	前期：4月・6月、 後期：11月・1月	各4日	高田馬場 BC	16
2部		各4日	高田馬場 BC	24
3) リジョナル競技会				
柳谷杯	4月11、12日	2日	四谷 BC/ 高田馬場 BC	100
サントリー杯	4月29日	1日	四谷 BC/名古屋 BC/大阪 BC	80
井上杯(予選・決勝)	5月30、31日	2日	四谷 BC	24
井上歌子杯	5月31日	1日	四谷 BC	32
渡辺杯	3月20、21日	2日	四谷 BC	40
4) 社会人リーグ				
社会人 IMP リーグ				12

2. 運営環境の整備（公益目的事業 1.2）

(1) 計画概要

本年度は以下の事業を実施する。

① 競技会運営管理システム

- 競技会集計ソフト（JTOS）の保守・管理を行い、3月までにバージョンアップを行う。
- スコア入力システム（ブリッジメイト）の使用方法啓蒙活動、導入支援、貸与を行う。
- 競技会速報システムを改良し使用を推進する。

② 競技会運営環境の整備と維持

- 競技会の規模に応じた競技会場を確保し、運営設備の維持向上に努める。

③ 競技委員会管轄事項

- 上告審理・裁定、公認コンベンションリストの見直し・改正・公表、ディレクター資格の審議・認定、マスターポイント規則の制定・改正を行う。

④ ルール委員会管轄事項

- 「デュプリケートブリッジの規則」及び競技会運営に関わる諸規則・規定の解釈・通知・公表、上告委員会裁定へのさらなる上告の審理・裁定を行う。

(2) 収支総括	2020 予算	2019 予算	前年差	備考
経常収益	0	0	0	
経常費用	1,720,000	1,700,000	20,000	
経常増減	-1,720,000	-1,700,000	-20,000	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	2020 予算	2019 予算	前年差	備考
競技会運営システム	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	1,470,000	1,450,000	20,000	
		経常増減	-1,470,000	-1,450,000	-20,000	
競技委員会	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	230,000	230,000	0	
		経常増減	-230,000	-230,000	0	
ルール委員会	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	20,000	20,000	0	
		経常増減	-20,000	-20,000	0	

3. ディレクターの養成（公益目的事業 1.3）

(1) 計画概要

本年度は以下の事業を実施する。

① ディレクター講習会

- 例年通り、新人ディレクター育成のための初級ディレクター講習会を、東京で1回、地方で1回開催する。

- ほかに、クラブディレクターを対象とする講習会、及びセクショナルディレクターをめざす方を対象とする講習会を各1回開催する。
 - WBFディレクター講習会を12月に開催する。
- ② ナショナルディレクター養成プログラム
- 3年に1回実施されるナショナルディレクター養成プログラムは今年度が実施年度にあたる。

(2) 収支総括	2020 予算	2019 予算	前年差	備 考
経常収益	0	0	0	
経常費用	1,190,000	290,000	900,000	
経常増減	-1,190,000	-290,000	-900,000	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	2020 予算	2019 予算	前年差	備 考
ディレクター講習会	拡大	経常収益	0	0	0	
		経常費用	700,000	90,000	610,000	
		経常増減	-700,000	-90,000	-610,000	
ナショナルディレクター養成プログラム	拡大	経常収益	0	0	0	
		経常費用	490,000	200,000	290,000	
		経常増減	-490,000	-200,000	-290,000	

4. 競技会事業管理（公益目的事業 1.9）

(1) 計画概要

競技会事業部の目的を達成するために必要な人件費、交通費、消耗品費、印刷製本費、賃借料などの経費を支出する。

(2) 収支総括	2020 予算	2019 予算	前年差	備 考
経常収益	0	0	0	
経常費用	17,940,000	17,890,000	50,000	
経常増減	-17,940,000	-17,890,000	-50,000	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	2020 予算	2019 予算	前年差	備 考
管理費 競技会事業部	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	17,940,000	17,890,000	50,000	
		経常増減	-17,940,000	-17,890,000	-50,000	

II. 普及事業（公益目的事業 2）

【2020 年度の計画概要】

(1) 計画概要

2020 年度は若いプレイヤーの獲得に引き続き取り組む。参加者が増加傾向にある橋之介くらぶでは、小学生、中学生、高校生にブリッジの基礎を学ぶ機会を提供する。大学生を中心としたユース世代には、ユースプロジェクトの実施、代表選考会の実施と世界大会への代表派遣、講習会の開催、合宿の参加費用の一部助成、競技会参加支援を行う。東京大学、早稲田大学、青山学院大学、明治大学、大阪大学、愛媛大学の 6 大学で大学授業を実施し、ブリッジに理解のある大学生の確保とブリッジの知名度向上を図る。20 代から 40 代の女性参加者が中心となる社交ブリッジおよび 20 代から 50 代の男性が中心となるゲーム愛好家向けブリッジを支援する。

競技人口の中心である中高年の新規プレイヤーの獲得に力を入れる。体験教室の告知広告を積極的にを行い参加者数の確保に努める。ねんりんピック岐阜 2020 に出展し、体験者を近隣センター・クラブの入門教室へ誘導する。優待券進呈キャンペーンを継続し口コミを活用する。入門者の競技会への移行を促進するため、首都圏の初心者大会の参加賞を充実させ活性化を図る。同大会に地方からの参加者を無償招待し地方の新規プレイヤーの増加に寄与する。講習会の先生と生徒と一緒にチームを組んで参加するサロン対抗戦を開催する。

普及事業部全体としては概ね前年並みのコストで展開する。「体験教室や入門講習会の実施支援」、「初心者競技会の支援」は、前年並みの規模で実施する。ブリッジを紹介する動画の制作やコンテンツの整備に取り組む。

(2) 収支総括	2020 予算	2019 予算	前年差	備考
経常収益	170,000	170,000	0	
経常費用	42,250,000	42,750,000	-500,000	
経常増減	-42,080,000	-42,580,000	500,000	

(3) 事業別総括表

事業名	区分	2020 予算	2019 予算	前年差	備考
2.1 体験イベントの開催	経常収益	170,000	170,000	0	
	経常費用	2,040,000	2,170,000	-130,000	
	経常増減	-1,870,000	-2,000,000	130,000	
2.2 講習会等の開催	経常収益	0	0	0	
	経常費用	1,530,000	1,750,000	-220,000	
	経常増減	-1,530,000	-1,750,000	220,000	
2.3 体験教室・講習会等の実施支援	経常収益	0	0	0	
	経常費用	14,040,000	14,600,000	-560,000	
	経常増減	-14,040,000	-14,600,000	560,000	
2.4 広報	経常収益	0	0	0	

	経常費用	7,350,000	6,300,000	1,050,000	
	経常増減	-7,350,000	-6,300,000	-1,050,000	
2.9 管理費	経常収益	0	0	0	
	経常費用	17,290,000	17,930,000	-640,000	
	経常増減	-17,290,000	-17,930,000	640,000	

【事業別計画】

1. 体験イベントの開催（公益目的事業 2.1）

(1) 計画概要

ブリッジをよく知らない人々を対象に、気軽に参加でき、ブリッジに対する興味・関心を高めてもらうための各種体験イベントを実施する。

① 未経験者用イベント

・出展予定イベントは、ねんりんピック、霞が関子ども見学デー、関西ジュニアペア基大会、ゲームマーケット春、秋、大阪。

② 競技会イベント

・△100の初心者競技会体験大会を年6回、△5の競技会を年2回開催する。

③ 子ども向け体験イベント（橋之介くらぶイベント）

・体験教室／入門講習会／練習会／競技会を開催し、20名の新入会を目標とする。

(2) 収支総括

	2020 予算	2019 予算	前年差	備考
経常収益	170,000	170,000	0	
経常費用	2,020,000	2,170,000	-150,000	
経常増減	-1,850,000	-2,000,000	150,000	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	2020 予算	2019 予算	前年差	備考
文化・教育関連イベント出展 国民文化祭	休止・中止	経常収益	0	0	0	宮崎県開催のため今年度の出展を見送り
		経常費用	0	260,000	-260,000	
		経常増減	0	-260,000	260,000	
文化・教育関連イベント出展 ねんりんピック	前年度並み	経常収益	0	0	0	岐阜開催
		経常費用	160,000	160,000	0	
		経常増減	-160,000	-160,000	0	
文化・教育関連イベント出展 その他のイベント	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	710,000	680,000	30,000	
		経常増減	-710,000	-680,000	-30,000	
一般向け体験イベント フェスタ体験教室	従来通り	経常収益	0	0	0	ブリッジフェスティバル 非開催
		経常費用	60,000	0	60,000	
		経常増減	-60,000	0	-60,000	
一般向け体験イベント 初心者大会開催	前年度並み	経常収益	100,000	100,000	0	
		経常費用	690,000	650,000	40,000	
		経常増減	-590,000	-550,000	-40,000	

子ども向け体験イベント 橋之介くらぶ運営	前年度並み	経常収益	70,000	70,000	0
		経常費用	400,000	420,000	-20,000
		経常増減	-330,000	-350,000	20,000

2. 講習会の開催（公益目的事業 2.2）

(1) 計画概要

ブリッジに親しみ、理解を深め、技量を向上させるための講習会を開催する。

① ユース向け講習会

・「ユース育成プロジェクト」の一環としてユース向け講習会を開催し、技術向上支援を行う。ユース代表の選考方法を効率化し費用を削減する。

② 入門コンテンツの制作

・コンベンションを選ばない汎用性のある入門用の練習ハンドを作成する。

(2) 収支総括	2020 予算	2019 予算	前年差	備考
経常収益	0	0	0	
経常費用	1,530,000	1,750,000	-220,000	
経常増減	-1,530,000	-1,750,000	220,000	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	2020 予算	2019 予算	前年差	備考
ブリッジインストラクター講習	休止・中止	経常収益	0	0	0	
		経常費用	0	-130,000	-130,000	
		経常増減	0	130,000	130,000	
ユース向け講習会 ユース育成 PJ	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	1,530,000	1,620,000	-90,000	
		経常増減	-1,530,000	-1,620,000	90,000	

3. 体験教室・講習会等の実施支援（公益目的事業 2.3）

(1) 計画概要

体験教室や講習会等を開催する会員・会友や他の団体等に対して、人的支援、金銭的支援、用具や教材の提供及びノウハウの提供を行う。

① 一般支援

- ・各種体験教室・講習会等は、規定の範囲内で講師及びアシスタント料や交通費等を助成する。体験教室は要請があれば用具・教材の提供や連盟職員の派遣を行うことがある。入門講習会は原則として1期12回までの助成とする。
- ・体験イベント支援や海外クラブ支援は、原則として申請に応じて助成する。
- ・地方クラブ支援は、地方クラブ・センターのそれぞれの課題に応じた支援を行う。

② 教育現場におけるブリッジ講座支援

- ・東京大学、早稲田大学、青山学院大学、明治大学、大阪大学、愛媛大学の5大学で授業を開講する。授業の進め方に工夫を凝らし、これまで培った指導法のさらなる発展を目指すとともに学生の理解度を向上させる。

③ 学校・学生支援

- ・学生クラブの活動支援（部員勧誘活動、クラブ立上げ、用具提供）、学生クラブによる他大学の友人・知人へのPR活動推進支援（費用支給）を行う。
- ・学生リーグ主催の学生選手権への参加費用を助成する。

(2) 収支総括

	2020 予算	2019 予算	前年差	備考
経常収益	0	0	0	
経常費用	14,040,000	14,600,000	-560,000	
経常増減	-14,040,000	-14,600,000	560,000	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	2020 予算	2019 予算	前年差	備考
普及活動支援 助成規定・海外ク ラブ支援	前年度並み	経常収益	0	0	0	前年度実績を反映 体験入門紹介キャンペ ーン継続
		経常費用	8,450,000	9,100,000	-650,000	
		経常増減	-8,450,000	-9,100,000	650,000	
普及活動支援 地方活性化支援	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	140,000	90,000	50,000	
		経常増減	-140,000	-90,000	-50,000	
学校講座支援 大学講座 東京大学	前年度並み	経常収益	0	0	0	講師：浅井潔
		経常費用	630,000	750,000	-120,000	
		経常増減	-630,000	-750,000	120,000	
学校講座支援 大学講座 早稲田大学	前年度並み	経常収益	0	0	0	講師：並木亮
		経常費用	1,400,000	1,460,000	-60,000	
		経常増減	-1,400,000	-1,460,000	60,000	
学校講座支援 大学講座 大阪大学	前年度並み	経常収益	0	0	0	講師：大橋正幸
		経常費用	530,000	530,000	0	
		経常増減	-530,000	-530,000	0	

学校講座支援 大学講座 青山学院大学	前年度並み	経常収益	0	0	0	講師: 島村京子
		経常費用	870,000	1,010,000	-140,000	
		経常増減	-870,000	-1,010,000	140,000	
学校講座支援 大学講座 明治大学	前年度並み	経常収益	0	0	0	講師: 清水映樹
		経常費用	570,000	590,000	-20,000	
		経常増減	-570,000	-590,000	20,000	
学校講座支援 大学講座 愛媛大学	新規	経常収益	0	0	0	講師: TOBY CURTIS
		経常費用	260,000	0	260,000	
		経常増減	-260,000	0	-260,000	
学校・学生の普及 活動支援	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	1,190,000	1,070,000	120,000	
		経常増減	-1,190,000	-1,070,000	-120,000	

4. 広報（公益目的事業 2.4）

(1) 計画概要

普及のターゲットごとに最適な広告メディアを選定して PR 活動やプロモーション活動を行う。

① 広報宣伝活動

- ・体験教室、入門講習会開催告知のための首都圏一斉広告を年 2 回実施する。
- ・地方の各センター・クラブ主催の体験教室、入門講習会開催告知のための広告を適宜実施する。
- ・ブリッジのルール、初歩の知識、テクニックを扱ったブリッジ紹介動画を制作し、YouTube やホームページ等で公開する。
- ・メディア広告、地域イベント参加やブリッジ図書寄贈などの PR 活動を行う。
- ・「普及通信」ウェブ版を隔月更新する。印刷版の郵送は終了とする。
- ・体験型イベントに出展し知名度の向上とセンター・クラブの入門講習会の支援を図る。

② プロモーション活動

- ・オンラインのゲーム環境として、BBO に開設した JCBL 専用ルームを充実させる。
- ・若い成人向けの社交型ブリッジの活動「Light Bridge」を支援し、新しいターゲットを対象とした広報活動の活性化と社交的なブリッジの楽しみ方の追求を目指す。

③ 出版物の刊行

- ・ブリッジをテーマにした小説・マンガの制作と出版を行う。

④ ウェブサイト運営

- ・入門用のコンテンツを整理し、わかりやすく見やすい構成に変更する。

⑤ 広報ツール、プロモーショングッズの作成・配付

- ・広報ツールやパンフレットの企画・開発を行う。プロモーショングッズを必要に応じて製作または購入する。

(2) 収支総括	2020 予算	2019 予算	前年差	備考
経常収益	0	0	0	
経常費用	7,350,000	6,300,000	1,050,000	
経常増減	-7,350,000	-6,300,000	-1,050,000	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	2020 予算	2019 予算	前年差	備考
広報宣伝活動	拡大	経常収益	0	0	0	ブリッジ紹介映像作成
		経常費用	6,980,000	5,770,000	1,210,000	HPリニューアル検討
		経常増減	-6,980,000	-5,770,000	-1,210,000	
出版 入門コース教材作成	縮小	経常収益	0	0	0	外部委託は予定しない
		経常費用	0	160,000	-160,000	
		経常増減	0	-160,000	160,000	
ウェブサイト JCBL ウェブサイトの運営	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	270,000	270,000	0	
		経常増減	-270,000	-270,000	0	
広報ツールの作成・配付	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	100,000	100,000	0	
		経常増減	-100,000	-100,000	0	

5. 普及事業管理（公益目的事業 2.9）

(1) 計画概要

- ブリッジインストラクター登録管理と登録証発行（3月）
- 普及事業部の目的を達成するために必要な人件費、交通費、消耗品費、印刷製本費、賃借料などの経費を支出する。

(2) 収支総括	2020 予算	2019 予算	前年差	備考
経常収益	0	0	0	
経常費用	17,290,000	17,930,000	-640,000	
経常増減	-17,290,000	-17,930,000	640,000	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	2020 予算	2019 予算	前年差	備考
管理費 普及事業部	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	17,290,000	17,930,000	-640,000	
		経常増減	-17,290,000	-17,930,000	640,000	

III. 国際交流事業（公益目的事業 3）

【2020 年度の計画概要】

(1) 計画概要

ブリッジは世界に多くの競技人口を有していることから、ブリッジを通じた国際交流を図ることは、国際親善・国際相互理解促進にとって有意義である。このため、(1)国際競技会の主催、(2)海外競技会への参加支援及び(3)国際的競技団体との交流の3事業を行う。

(2) 収支総括

	2020 予算	2019 予算	前年差	備考
経常収益	2,640,000	3,090,000	-450,000	
経常費用	21,180,000	25,800,000	-4,620,000	
経常増減	-18,540,000	-22,710,000	4,170,000	

(3) 事業別総括表

事業名	区分	2020 予算	2019 予算	前年差	備考
3.1 国際競技会の主催	経常収益	110,000	110,000	0	
	経常費用	0	0	0	
	経常増減	110,000	110,000	0	
3.2 国際競技会への参加費用助成	経常収益	2,530,000	2,980,000	-450,000	
	経常費用	16,280,000	20,840,000	-4,560,000	
	経常増減	-13,750,000	-17,860,000	4,110,000	
3.3 国際的競技団体との交流	経常収益	0	0	0	
	経常費用	1,130,000	1,180,000	-50,000	
	経常増減	-1,130,000	-1,180,000	50,000	
3.9 管理費	経常収益	0	0	0	
	経常費用	3,770,000	3,780,000	-10,000	
	経常増減	-3,770,000	-3,780,000	10,000	

【事業別計画】

1. 国際競技会の主催（公益目的事業 3.1）

(1) 計画概要

国際大会開催準備金については 2020 年度の積み増しを継続する。

(2) 収支総括	2020 予算	2019 予算	前年差	備考
経常収益	110,000	110,000	0	
経常費用	0	0	0	
経常増減	110,000	110,000	0	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	2020 予算	2019 予算	前年差	備考
APBF 選手権/コングレス	前年度並み	経常収益	110,000	110,000	0	国際大会開催準備金は継続
		経常費用	0	0	0	
		経常増減	110,000	110,000	0	

2. 国際競技会への代表派遣（公益目的事業 3.2）

(1) 計画概要

① 日本代表選抜

- 日本代表選抜試合を開催し、2021 年度に開催される第 53 回 APBF 選手権のオープン、ウィメン、ミックス、シニアの各チームを選抜する。遠隔地からの参加者には、交通費と宿泊費を助成する。
- 代表チームの国内競技会参加費及び練習会の費用を助成する。

② 国際競技会派遣

2020 ワールドブリッジゲームズ

8 月 21 日から 9 月 3 日にイタリアのサルソマッジョーレ・テルメで開催される 2020 ワールドブリッジゲームズにメン、ウィメン、ミックス、シニアの各チームの選手、キャプテンの派遣を行う。

- 日本代表のユニフォームを作成、代表選手に支給する。

③ 国際競技会派遣（ユース）

本年度は以下の競技会への参加を支援する。

- 7 月 31 日から 8 月 9 日にイタリアのサルソマッジョーレ・テルメで開催される世界ユースチーム選手権にジュニア、ヤングスター（ともにグレードⅡ）、U31(エントリー費のみ助成)の各チームの選手、キャプテンの派遣を行う。

(2) 収支総括	2020 予算	2019 予算	前年差	備考
経常収益	2,530,000	2,980,000	-450,000	
経常費用	16,280,000	20,840,000	-4,560,000	
経常増減	-13,750,000	-17,860,000	4,110,000	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	2020 予算	2019 予算	前年差	備考
日本代表選抜	前年度並み	経常収益	530,000	480,000	50,000	会場費減少
		経常費用	1,560,000	1,740,000	-180,000	
		経常増減	-1,030,000	-1,260,000	230,000	
国際競技会派遣 APBF 選手権/アジアカップ	休止・中止	経常収益	0	2,500,000	-2,500,000	APBF 非開催年度
		経常費用	0	5,130,000	-5,130,000	
		経常増減	0	-2,630,000	2,630,000	
国際競技会派遣 アジア競技大会/ 世界選手権	拡大	経常収益	2,000,000	0	2,000,000	イタリアに 4 カテゴリーを派遣
		経常費用	9,470,000	7,310,000	2,160,000	
		経常増減	-7,470,000	-7,310,000	-160,000	
国際競技会派遣 その他	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	300,000	300,000	0	
		経常増減	-300,000	-300,000	0	
国際競技会派遣 日本代表ユニフォーム	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	680,000	700,000	-20,000	
		経常増減	-680,000	-700,000	20,000	
ユース育成プログラム APBF/コングレス派遣	縮小	経常収益	0	0	0	ジュニアおよびヤングスターを派遣
		経常費用	1,660,000	3,210,000	-1,550,000	
		経常増減	-1,660,000	-3,210,000	1,550,000	
ユース育成プログラム 世界選手権派遣	実施	経常収益	0	0	0	ヤングスターを派遣
		経常費用	1,920,000	0	1,920,000	
		経常増減	-1,920,000	0	-1,920,000	
ユース育成プログラム 世界選手権/大学選手権	休止・中止	経常収益	0	0	0	派遣なし
		経常費用	0	1,850,000	-1,850,000	
		経常増減	0	-1,850,000	1,850,000	
ユース育成プログラム その他国際 競技会参加支援	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	690,000	600,000	90,000	
		経常増減	-690,000	-600,000	-90,000	

3. 国際的競技団体との交流（公益目的事業 3.3）

(1) 計画概要

コントラクトブリッジを通じた国際交流を促進するため、本年度は以下の事業を実施する。

① 世界同時大会への参加

- 2020年6月5、6日に開催される世界同時大会開催に参加協力する。

② 海外競技会に参加する会員・会友の支援と海外への情報提供・収集

- ACBL との提携の継続・強化：ACBL 競技会の開催予定情報を提供する。
- APBF 加盟国・地域における競技会開催情報を提供する。
- WBF 加盟国・地域における競技会開催情報を提供する。

③ JCBL ウェブサイトの活用

連盟サイトを通して海外に情報を提供するとともに、ブリッジ関連サイトから情報を収集し、会員に提供する。

(2) 収支総括	2020 予算	2019 予算	前年差	備考
経常収益	0	0	0	
経常費用	1,130,000	1,180,000	-50,000	
経常増減	-1,130,000	-1,180,000	50,000	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	2020 予算	2019 予算	前年差	備考
国際的競技団体との交流	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	1,130,000	1,180,000	-50,000	
		経常増減	-1,130,000	-1,180,000	50,000	

4. 国際交流事業管理（公益目的事業 3.9）

(1) 計画概要

国際交流事業部の目的を達成するために必要な人件費、交通費、消耗品費、印刷製本費、賃借料などの経費を支出する。

(2) 収支総括	2020 予算	2019 予算	前年差	備考
経常収益	0	0	0	
経常費用	3,770,000	3,780,000	-10,000	
経常増減	-3,770,000	-3,780,000	10,000	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	2020 予算	2019 予算	前年差	備考
管理費 国際交流事業部	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	3,770,000	3,780,000	-10,000	
		経常増減	-3,770,000	-3,780,000	10,000	

IV. 公益事業共通

【2020 年度の計画概要】

(1) 計画概要

基本財産運用益及び会費収入の 50%を公益事業及び法人会計にそれぞれ繰り入れ、公益事業活動の原資とする。

(2) 収支総括	2020 予算	2019 予算	前年差	備考
経常収益	17,010,000	17,010,000	0	
経常費用	0	0	0	
経常増減	17,010,000	17,010,000	0	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	2020 予算	2019 予算	前年差	備考
公益事業共通	前年度並み!	経常収益	17,010,000	17,010,000	0	
		経常費用	0	0	0	
		経常増減	17,010,000	17,010,000	0	

V. 収益事業等

【2020年度の計画概要】

(1) 計画概要

公認事業は競技会事業部が、商品販売事業は事務局が担当する。

(2) 収支総括	2020 予算	2019 予算	前年差	備考
経常収益	143,360,000	151,670,000	-8,310,000	
経常費用	35,660,000	38,380,000	-2,720,000	
経常増減	107,700,000	113,290,000	-5,590,000	

(3) 事業別総括表

事業名	区分	2020 予算	2019 予算	前年差	備考
1 公認	経常収益	127,260,000	131,570,000	-4,310,000	
	経常費用	21,640,000	21,710,000	-70,000	
	経常増減	105,620,000	109,860,000	-4,240,000	
2 商品販売	経常収益	16,100,000	20,100,000	-4,000,000	
	経常費用	14,020,000	16,670,000	-2,650,000	
	経常増減	2,080,000	3,430,000	-1,350,000	

【事業別計画】

1. 公認（収益事業等 1）

(1) 計画概要

「公認クラブとブリッジセンターに関する規則」に定める条件を満たしブリッジの普及に努める団体を公認クラブ及び公認ブリッジセンターとして承認し、その活動を支援するとともに、同規則その他当連盟の定める諸規程に基づいてこれらの団体が開催する競技会を公認競技会として承認する。公認競技会における各競技者の成績は、公式な成績としてマスターポイントを発行し、記録・管理する。

公認事業関連業務の見直しを行い、システム化と効率化を図る。

「センター協議委員会」を中心に公認ブリッジクラブ及びブリッジセンターとの協議を継続し、公認料制度の見直しを含め、ブリッジの普及と発展に資する公認制度の在り方を検討していく。

収益事業等 1.1 競技会の公認

① クラブ・センター主催競技会の公認

- ナショナル、リジョナル、セクショナル、ローカル、CCG、IMP リーグ、ウィークリーゲームを公認する。
- ナショナル、リジョナル、セクショナル、IMP リーグの公認料率は参加料の 22%を継続する。ブリッジセンターについては 2019 年度の普及活動実施状況により、2020 年度の公認料率を決定する。
- ユースプレイヤーに対する競技会参加料割引を実施する。

② マスターポイントの認定・管理

- ・ マスターポイントの集計・発行及びマスター位の認定を行う。

収益事業等 1.2 ブリッジクラブの公認と育成

① ブリッジクラブの公認と育成

- ・ ブリッジクラブ及びブリッジセンターを公認する。
- ・ 浜松リジョナルにあわせて地方クラブ会議を開催し、地方クラブの意見やニーズの把握に努める。また、会議に出席する地方クラブ代表に対する参加費用の支援を行う。
- ・ 「常設会場運営のためのサービス・ガイドライン」の運用、「ゲーム環境に係わるサービス向上のための意見書」対応、「緊急連絡システム」の運営、AED 設置及びバリアフリー工事支援事業を行う。

② 競技会開催支援

- ・ 地方リジョナル開催時のディレクター派遣費用の支援を行う。

(2) 収支総括	2020 予算	2019 予算	前年差	備考
経常収益	127,260,000	131,570,000	-4,310,000	
経常費用	21,640,000	21,710,000	-70,000	
経常増減	105,620,000	109,860,000	-4,240,000	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	2020 予算	2019 予算	前年差	備考
競技会の公認	前年度並み	経常収益	127,260,000	131,570,000	-4,310,000	
		経常費用	20,440,000	20,510,000	-70,000	
		経常増減	106,820,000	110,060,000	-4,240,000	
コントラクトブリッジクラブの公認と育成	前年度並み	経常収益	0	0	0	AED 購入及びバリアフ
		経常費用	1,200,000	1,200,000	0	リー工事助成
		経常増減	-1,200,000	-1,200,000	0	地方リジョナル支援

2. 商品販売（収益事業等 2）

(1) 計画概要

コントラクトブリッジに関する書籍、競技用具等の販売を行う。在庫管理や販売方法など関連業務の効率化を図る。

(2) 収支総括	2020 予算	2019 予算	前年差	備考
経常収益	16,100,000	20,100,000	-4,000,000	
経常費用	14,020,000	16,670,000	-2,650,000	
経常増減	2,080,000	3,430,000	-1,350,000	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	2020 予算	2019 予算	前年差	備考
商品販売事業	縮小	経常収益	16,100,000	20,100,000	-4,000,000	
		経常費用	14,020,000	16,670,000	-2,650,000	
		経常増減	2,080,000	3,430,000	-1,350,000	

VI. 法人・管理部門

【2020年度の計画概要】

(1) 計画概要

1. 会員・会友

① 会員・会友向け刊行物の発行

- ・ 会員・会友向けの以下の刊行物を編集・発行する。今後会報発行の頻度を削減することが可能か検討する。

『JCBL BULLETIN』（会報） 隔月刊年6回奇数月1日に発行、部数：7,600部

『JCBL HANDBOOK』 毎年5月1日発行、部数：7,800部

② JCBL ライブラリーの運営

- ・ 通常の新刊書に加えて、欠落していた図書の追加購入を行う。

③ キャンペーン

- ・ 会員・会友向けに以下のキャンペーンを実施する。

入会キャンペーン 前年度に引き続き新規入会者の会費を2021年3月まで無料にする「新入会無料キャンペーン」及び、紹介者にQUOカードを進呈する「紹介キャンペーン」を実施する。

ビギナーズ杯招待 初心者プレイヤーに対する競技会参加奨励策として実施。各ブリッジセンターで開催されるビギナーズ杯に抽選で招待する。

2. 組織運営

- ・ 事務局業務の改善に引き続き取り組む。組織運営体制及び事務局の人員体制の変更を勘案して、業務の効率化を推進する。
- ・ 内部統制力の向上のため、連盟内システムの見直しと改善を図る。

3. 常設委員会

① 企画委員会

- ・ 企画委員会は、毎年度の予算及び事業計画の策定のほか、10年後の連盟及び会員・会友のあり方を想定して事業部ごとの中期計画を策定することと、連盟のさまざまな制度の見直しと改革を使命とする。
- ・ 今年度も、引き続いて連盟の中長期的な財政基盤の充実と、現在のブリッジの競技環境の維持が最大の課題となる。連盟主催・公認競技会の参加者を増やす方策を中心にすえて、連盟の事業運営の安定化をめざす。
- ・ ナショナルディレクター採用試験の円滑な実施とJTOSの適切な運用に留意する。

② センター協議委員会

- ・ センター協議委員会は、競技会と普及活動の拠点であるブリッジセンターと当連盟との協力関係の構築を使命とする。
- ・ 過去数年間で実現した連盟とブリッジセンターとの新しい会計基準の導入、対応の難しいプレイヤーに関するガイドラインの策定、体験教室・入門教室などに関する助成制度の見直しや追加などについて、今年度も引き続き見直しと拡充をはかる。
- ・ 競技会参加者数の維持および新規参加者の増加に向けて、ブリッジセンターとの協議

を通じて、さまざまな方策を提案できるよう努める。

(2) 収支総括	2020 予算	2019 予算	前年差	備考
経常収益	16,740,000	16,740,000	0	
経常費用	49,420,000	49,360,000	60,000	
経常増減	-32,680,000	-32,620,000	-60,000	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	2020 予算	2019 予算	前年差	備考
会員・会友 刊行物の発行	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	3,560,000	3,558,000	2,000	
		経常増減	-3,560,000	-3,558,000	-2,000	
会員・会友 JCBL ライブラリー	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	5,520,000	5,522,000	-2,000	
		経常増減	-5,520,000	-5,522,000	2,000	
会員・会友 キャンペーン	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	280,000	280,000	0	
		経常増減	-280,000	-280,000	0	
組織運営 管理部	前年度並み	経常収益	16,740,000	16,740,000	0	
		経常費用	40,060,000	40,000,000	60,000	
		経常増減	-23,320,000	-23,260,000	-60,000	